

2024 年度 研究サマリー

研究会名称	一般社団法人 電解水透析研究会	
代表者所属	聖路加国際大学	
代表者氏名	中山昌明	
研究方法・結果 (1) 研究会参加施設患者の実態確認 (横断調査) 電解水血液透析治療を受けている国内患者の実態把握：横断観察研究。(2018 年 6 月聖路加国際病院倫理委員会承認) 解析対象：過去本調査に登録されている例・新規登録例 評価項目：2023 年 12 月末時点における患者特性、透析状況、合併症、予後に関する記述統計。 死亡調査：当該年の通院施設での死亡、転院例の転院後 1 か月以内の死亡は死亡例としてカウント 結果：登録数 2,045 例、年間死亡数 123 例、粗死亡率は 5.0%だった。死亡例は男性 70.7%、平均年齢 79.8 歳 (80 歳以上 58.6%)、平均透析期間 101.9 月 (電解水透析 45.7 月)、死因は感染症 24.4%と最多、次いで悪性腫瘍 10.5%、心不全 9.8%、老衰 8.9%、突然死 8.1%だった。治療に伴う患者への医学的不利益は報告されていない。 (2) 研究会参加施設患者の予後確認 (縦断調査) 当該治療を受けている外来透析患者 (国内 19 施設) の実態を検討した。調査期間は 2018 年 12 月末から 2022 年 12 月末の 5 年間で、調査対象例数は 2482 名、観察期間 29.0 月の間、死亡例は 303 例、死亡率 50.5 (1000 人年)だった。死亡に対する独立危険因子として、年齢、脳卒中既往、栄養状態が確認された。死因の第一位は感染症 20.6%、次いで心不全 13.3%だった。登録数 2,482 例、総死亡 303 例、死亡率 50.5 (1000 患者・年)だった。多変量解析では、死亡危険因子として年齢、脳卒中既往、CRP、栄養状態が同定されたが、OLHDF の有意性は確認されなかった。以上の結果を踏まえ、本治療法の臨床的な有用性を明らかにするために、今後、通常透析との比較検討を行う必要があると考える。		
研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等) 中山昌明ら. 電解水血液透析の現状報告. 透析会誌 58 (2) : 93~101, 2025		